

平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」からみえる飯田市の子どもたち — 質問紙調査の結果分析 —

飯田市教育委員会学校教育課

全国学力・学習状況調査の実施状況

- 1 実施日 平成 28 年 4 月 19 日 (火)
- 2 対象学年 小学校第 6 学年 中学校第 3 学年
- 3 調査の内容

(1) 教科に関する調査 (国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題 (A問題)
- ・主として「活用」に関する問題 (B問題)

(2) 質問紙調査

- ・児童生徒に対する質問紙調査 (小学校 85 問、中学校 85 問)

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

- ・学校に対する質問紙調査 (小学校 116 問、中学校 114 問)

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備状況等に関する質問紙調査

4 平成 28 年 4 月 19 日 (火) に調査を実施した学校・児童生徒数

【小学校調査】

	実施学校数	児童数
飯田市 (公立学校)	19 校	911 人
長野県 (公立学校)	368 校	18,004 人
全 国 (公立学校)	19,751 校	1,021,905 人

【中学校調査】

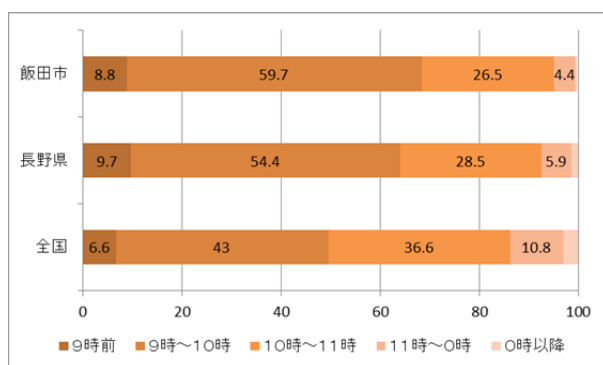
	実施学校数	生徒数
飯田市 (公立学校)	9 校	993 人
長野県 (公立学校)	188 校	18,455 人
全 国 (公立学校)	9,684 校	996,188 人

基本的な生活習慣と日常生活に関して

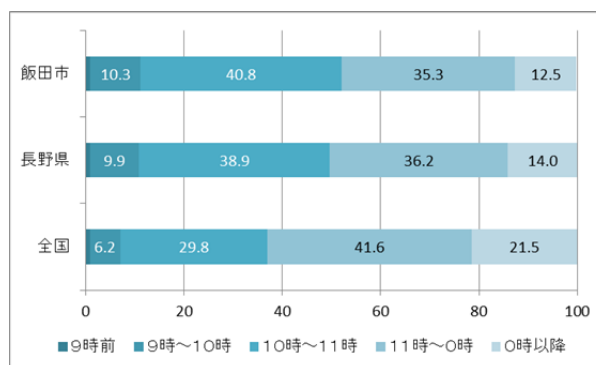
子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する今日、子どもたちが、家族とのふれあいの中で、基本的な生活習慣を習得し、様々な経験を通して、コミュニケーション能力や社会性を培って欲しいと願っている。そこで、飯田市教育委員会では、家庭教育の重要性をこれまで以上に訴えていく啓発活動として、家族と一緒に過ごす時間を「わが家の結いタイム」と名付け、家族の「対話」や「ふれあい」の推進を図っている。

この「わが家の結いタイム」の視点から、飯田市の子どもたちの基本的な生活習慣や日常生活を分析した。

[グラフ-1:小 普段、何時ごろ寝ますか]

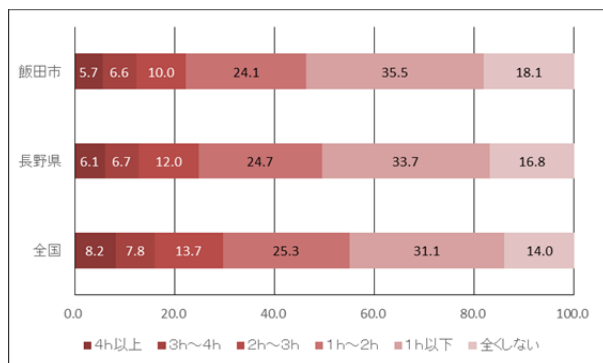


[グラフ-2:中 普段、何時ごろ寝ますか]

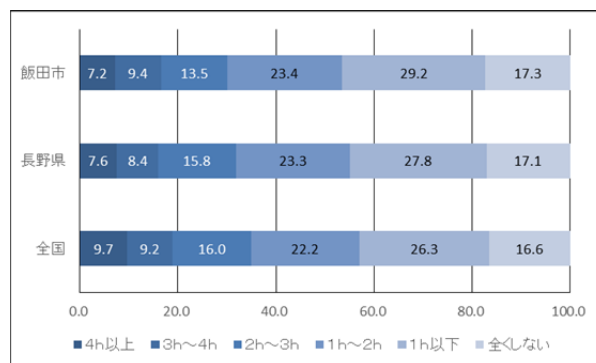


小学校では、10時までに就寝しているが68.5%で、全国の49.6%よりも18.9ポイント高い。中学校も同様に、11時までに就寝しているが52.0%で、全国の36.9%よりも15.1ポイント高い。

[グラフ-3:小 1日当たりテレビゲームをする時間]



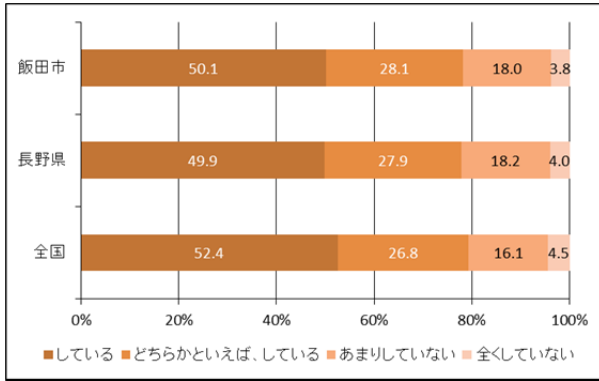
[グラフ-4:中 1日当たりテレビゲームをする時間]



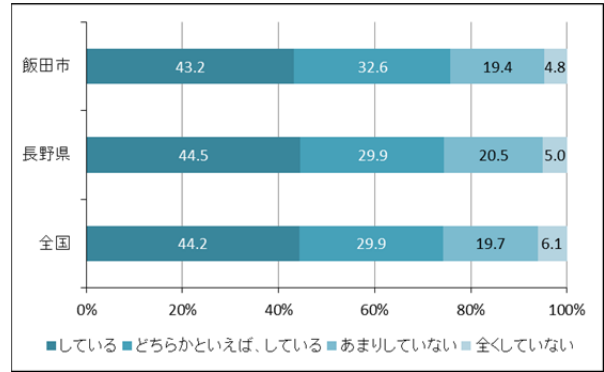
小学校では、普段、1日当たりテレビゲームを2時間以上しているが22.3%で、全国の29.7%よりも7.4ポイント低い。また、全くしないは18.1%で、全国の14.0%よりも4.1ポイント高い。

中学校では、普段、1日当たりテレビゲームを2時間以上しているが30.1%で、全国の34.9%よりも4.8ポイント低い。また、全くしないは17.3%で、全国の16.6%よりも0.7ポイント高い。

[グラフ-5:小 家の人と学校のことを話しますか]



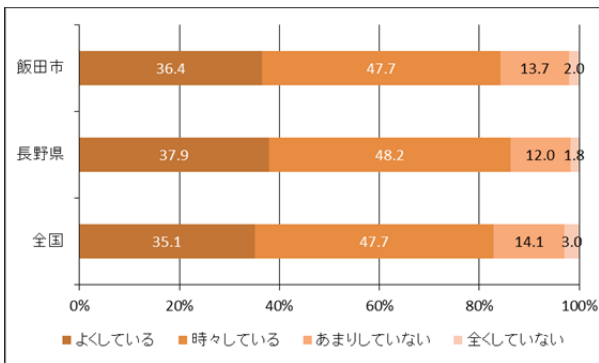
[グラフ-6:中 家の人と学校のことを話しますか]



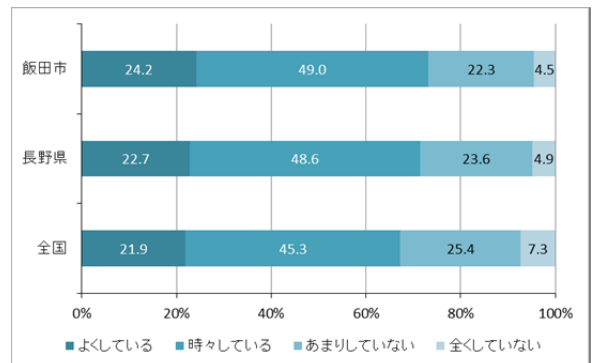
グラフ 5, 6 は、兄弟姉妹を除く家族と学校での出来事について話をするか訊ねたものである。小学校では、肯定的な回答（している、どちらかといえば、しているの合算）が 78.2%と全国の 79.2% とほぼ同程度であった。

中学校では、肯定的な回答（小学校に同じ）は 75.8%で、全国の 74.1%を 1.7 ポイント上回った。

[グラフ-7:小 家の手伝いをしていますか]



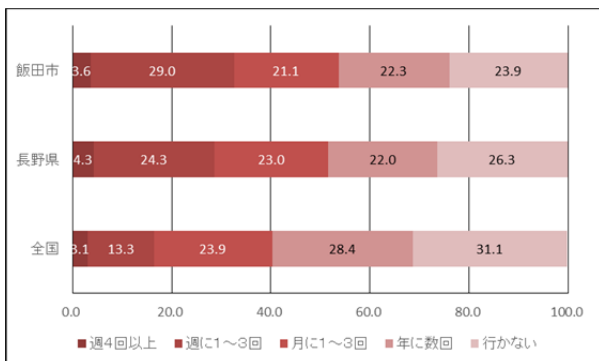
[グラフ-8:中 家の手伝いをしていますか]



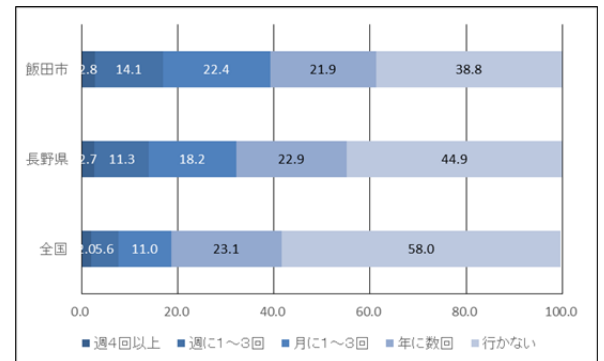
小学校では、家の手伝をしている（よくしている、時々しているの合算）が 84.1%で、全国の 82.8% よりも 1.3 ポイント高い。

中学校では、家の手伝いをしている（小学校に同じ）が 73.2%で、全国の 67.2%より 6.2 ポイント高い。

[グラフ-9:小 学校や地域の図書館利用の回数]



[グラフ-10:中 学校や地域の図書館利用の回数]



小学校では、週に 1 回以上学校や地域の図書館を利用しているが 32.6%で、全国の 16.4%よりも 16.2 ポイント高い。ほとんどまたは全く利用しないのは 23.9%で、全国の 31.1%よりも 7.2 ポイント低い。

中学校では、週に1回以上学校や地域の図書館を利用しているが16.9%で、全国の7.6%よりも9.3ポイント高い。ほとんどまたは全く利用しないは38.8%で、全国の58.0%よりも19.2ポイント低い。

飯田市の小学生の7割強が10時までに就寝し、中学生も5割強が11時までに就寝している。また、コンピュータゲームや携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含めたテレビゲームをしている時間は、全国と比べると小中学生ともに短い。これらのことから、ゲームをしながら夜更かしするような生活をしている児童生徒は、全国と比べて少ないことが予想され、多くの児童生徒に家庭での基本的な生活習慣が身についていると考えられる。

家の人と学校のことについて対話をすることは、全国と比べ、小学生は同程度であり、中学生は、家の人とよく話をする姿が伺うことができる。しかし、小中学生とも、2割前後の子どもたちが、家の人とあまり話をしない実態も浮かび上がった。

小学生の8割強、中学生の7割強が手伝いをしていると肯定的な回答をしている。子どもたちに家庭の中での役割があり、自己肯定感を培う基があるものと考えられる。

小中学生とも学校や休日の地域の図書館利用が、全国と比べ群を抜いて多いことがわかる。

飯田市では、地域ぐるみで教育を推進し、特に平成20年度からは、「わが家の結いタイム」の啓発活動を通じて、①あいさつ、②会話、③お手伝い、④読書に力を入れて取り組んでいる。子どもたちの、基本的な生活習慣や、親子の会話、家庭での手伝い、積極的な図書館利用などに表れる姿は、こうした取組みの長年の成果と考えられる。

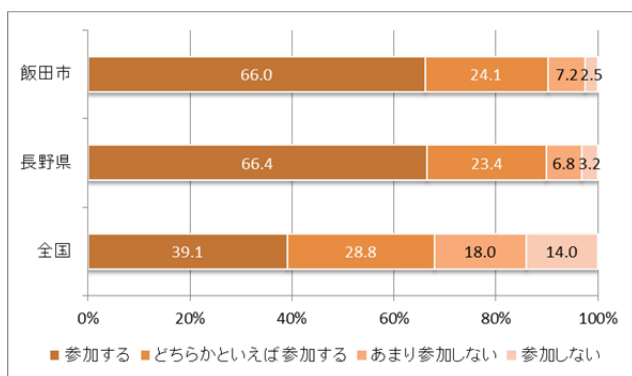
地育力による学校支援・学習支援に関して

飯田市は平成19年度に「地育力向上連携システム推進計画(※)」を策定し、主体的に人生を切り拓く力を養う「キャリア教育」、ふるさとを愛し誇りに思う心を育む「ふるさと学習」、地域の資源に触れ本物を体験する「本物体験」を展開し、地域ぐるみで教育を推進して、飯田らしい教育の質的な向上を図ってきている。こうした「地育力によるこころ豊かな人づくり」の視点から、飯田市の子どもたちの姿を分析した。

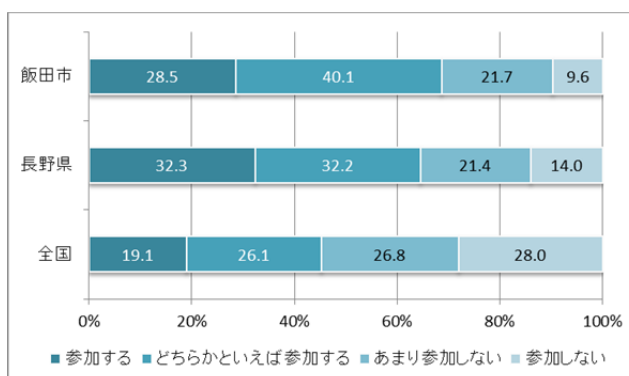
〔※地育力向上連携システム：地育力を活用した「ふるさと学習」「体験」「キャリア教育」の取組など〕

(1) 児童生徒の地域へのかかわりについて

[グラフ-1:小 地域の行事に参加しますか]



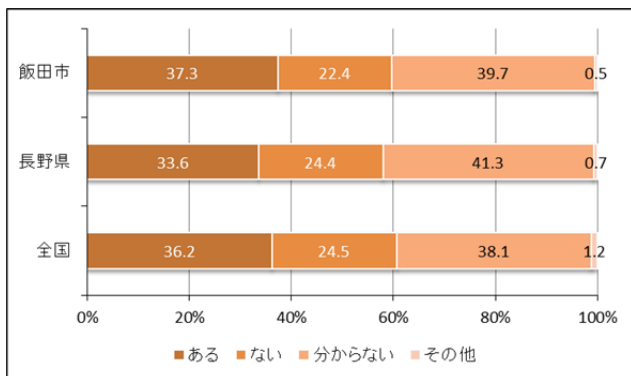
[グラフ-2:中 地域の行事に参加しますか]



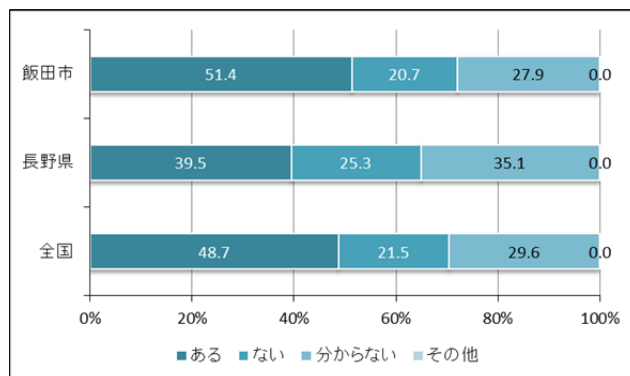
飯田市の児童生徒が地域の行事に参加する割合はグラフ1,2のとおりである。グラフ1から小学

生の肯定的な回答（参加する、どちらかといえば参加するの合算）は90.1%で、全国の67.9%を大きく上回っている。グラフ2から中学生の肯定的な回答（小学校に同じ）は68.6%で、全国の45.2%を小学生同様大きく上回っている。

[グラフ-3：小 ボランティア活動に参加]



[グラフ-4：中 ボランティア活動に参加]

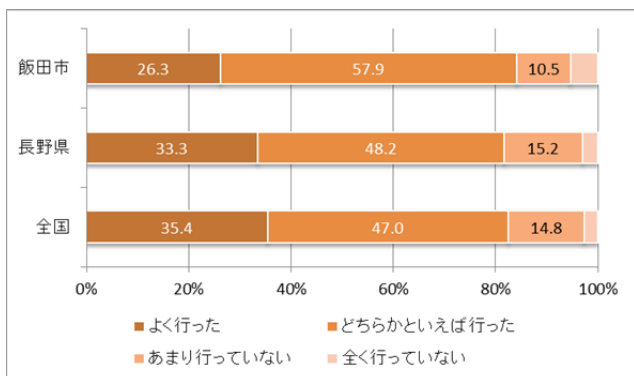


グラフ3,4は、地域社会などでボランティア活動に参加したことはありますか、と訊ねたものである。小学生は37.3%と全国の36.2%と同程度である。中学生は、51.4%と全国の48.7%より2.7ポイント高く、地域社会でのボランティア活動に意欲的な姿も感じられる。

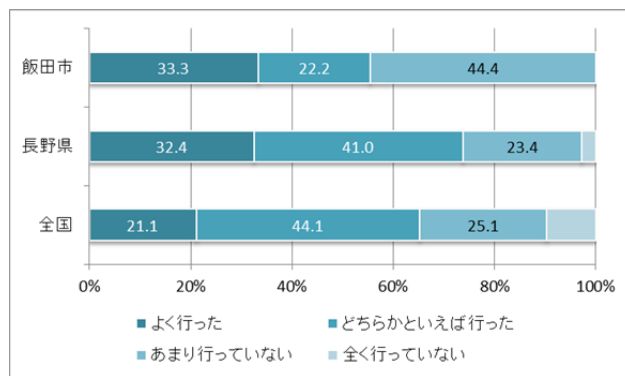
(2) 地域の学校支援・学習支援について

飯田市は、地域の特色を生かし地域と共にある学校づくりに取り組んでいる。以下、学校長が回答した学校質問紙の調査結果から、地域の学校支援・学習支援について全国の調査結果と比較した。

[グラフ-5：小 地域人材を外部講師に授業]



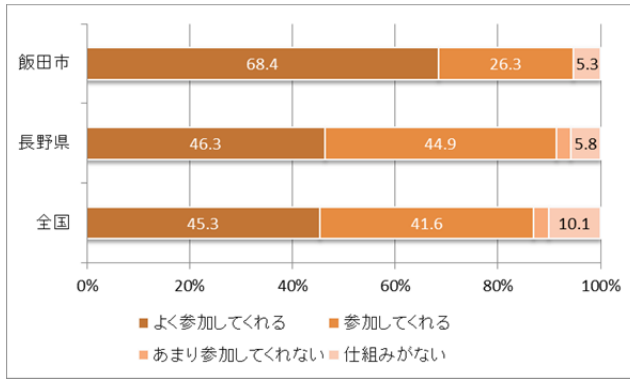
[グラフ-6：中 地域人材を外部講師に授業]



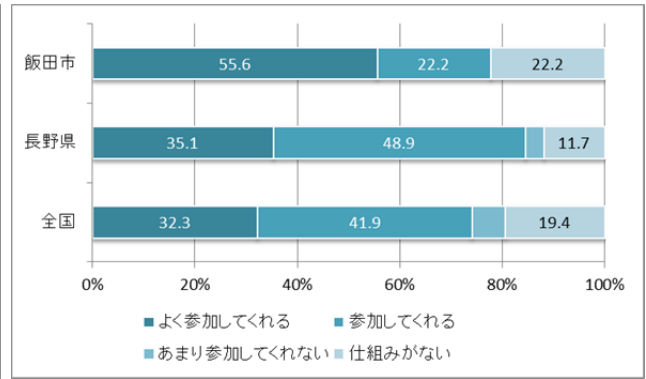
グラフ5から、小学校の「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った」割合は84.2%と、全国の82.4%より1.8ポイント高く、また昨年の77.7%から6.5ポイント増加した。

グラフ6から、中学校の割合は55.5%と全国の65.2%より9.7ポイント低く、また、昨年の66.7%から11.2ポイント減少した。これは昨年引き続き10ポイント以上の減少である。小中学校共に、年度による増減が見られることから教育課程が定まっていない状況が伺える。

[グラフ-7：小 学校支援の仕組みによる参加]

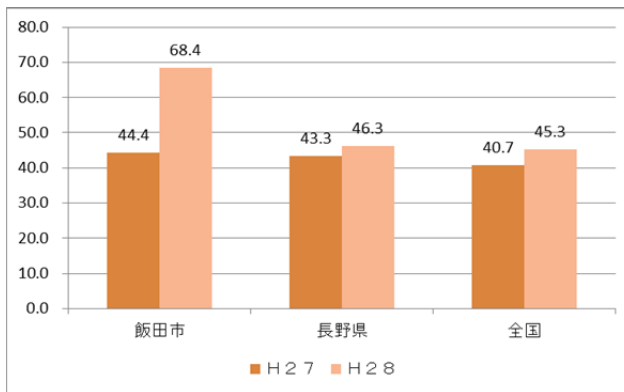


[グラフ-8：中 学校支援の仕組みによる参加]

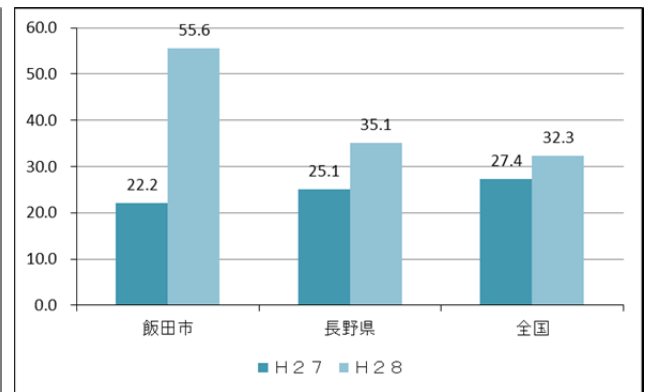


グラフ 7, 8 は、「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校における教育活動や様々な活動に参加する」割合を訊ねている。小学校は 94.7%と全国の 86.9%を 7.8 ポイント上回った。中学校の割合は 77.8%と全国の 74.2%より 3.6 ポイント高い。

[グラフ-9：小 活動への参加 (H27~28)]



[グラフ-10：中 活動への参加 (H27~28)]



グラフ 9, 10 は、前述の学校支援の仕組みによる保護者や地域の人々の参加のうち、「よく参加してくれる」割合について、前年度と比較をしたものである。小学校は 68.4%と昨年の 44.4%から 24.0 ポイント増加し、中学校は 55.6%と昨年の 22.2%から 33.3 ポイントと大幅に増加した。小中共に、長野県や全国と比べ伸び幅が段違いに大きい。

地域社会でのボランティア活動参加は、小中学生とも全国と同程度であるが、地域行事へ参加は、全国と比べ、小中学生とも群を抜いて多い。地域人材を外部講師として活用することは、小学校では年々増加しているが、中学校では減少傾向にある。このように、地域の人材や資源を活用した学校の取組は、浸透しているといえるが、小中学校ともに年度による増減が見られる。これは、学年体制による違い等が要因として考えられ、担当が変わっても継続する、地域との恒常的・発展的な連携が求められる。

本年度は、学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人々が学校における教育活動や様々な活動に参加することが、小中学校共に大幅に増加している。これは昨年来、各学校が、学校と地域が協働する仕組みづくりを模索してきた結果と言える。本年度はさらにこれを土台に、地域住民や保護者が「学校運営への参画・承認、学校評価、学校支援」を一体的・持続的に実施していく仕組みを「飯田コミュニティスクール」として、全ての小中学校で設置していく。